

2021 年度 自己評価表
広島YMCA専門学校

1. 学校の教育目標

ポジティブネットのある豊かな社会の形成を目指して、「愛と奉仕」の精神を体得し、社会に貢献できる人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 安全・安心な学校生活のための感染予防対策の継続的实施。
- ② 面談等の実施による生徒理解の強化。
- ③ 留学生の多様化する進路への対応強化。
- ④ 商業系学科における留学生受け入れ体制の整備。
- ⑤ ICT を活用した教育方法の一層の推進。
- ⑥ 言語コミュニケーション科におけるオーラルコミュニケーション力の強化。
- ⑦ 学校訪問および SNS 活用による募集力の強化。
- ⑧ 新規事業としての外国人労働者を抱える企業に対する日本語レッスンの運営方法の確立。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	4	③	2	1
各学科の教育目標,育成人材像は,学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

YMCAが christianity を基盤とし、「愛と奉仕」の精神を教育理念に据えていることは、募集パンフレットやオープンキャンパスでも紹介しているため、それを踏まえて入学している生徒も少なからずいるものと思われる。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染が収まらない中、入学式、卒業式以外の行事での説明機会が減少しており、理解の深化や拡大がとどまっている。保護者については生徒以上に説明する機会が少なく、理解度は低いものと考えられる。また、理解度の確認自体も難しい。

② 今後の改善方策

教職員に対して理念への理解を促し、授業や日頃の接触による生徒への理念浸透を図る必要がある。保護者に関しては、学校通信等の紙媒体や SNS 等のメディアを通して周知することが求められる。

③ 特記事項

各学科の教育課程編成委員会の提言を反映させた業界のニーズに沿ったカリキュラム等の策定と併せ、実習での各企業のご協力のもと、実践力のある人材育成が進められている。引き続き将来を見越した教育内容となるよう努めたい。

(2)学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務、財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

言語コミュニケーション科と他学科において、学事日程、授業評価システム等多少の差異はあるものの、学校運営上、問題となるようなことはない。

② 今後の改善方策

①の点については、今後も校長、事務長、事務長補佐等でコミュニケーションを取りながら意志決定を行う必要がある。

③ 特記事項

学校の内外に向けて開かれた風通しのよい学校運営のため、業界や地域社会との連携を深めることが求められる。

(3)教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④	3	2	1

教育理念,育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	④	3	2	1
関連分野の企業関係施設等,業界団体等の連携により,カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ,実技実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
成績評価単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制,カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界との連携において優れた教員(本務兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

学科により教員に対する研修の取り組みに差異が見られる。コロナ禍で対面での研修が困難な場合はあるが、オンライン研修等も活用し、すべての学科において、資質向上のための研修を実施する必要がある。

② 今後の改善方策

教員に対する学校側の評価や期待に基づいた研修の受講を勧めるとともに、教員自身の自己評価と自己研鑽意識による研修受講の両面から取り組むべきである。対面、オンライン等、効率や効果を勘案したうえで受講してもらい、指導力や資質向上に努めさせる必要がある。

③ 特記事項

(1)③でも記載したとおり、各学科の教育課程編成委員会により、外部委員の業界理解と先見性を反映させたカリキュラムの改定が毎年行われている。また、授業等の実践においても、タイムリーなご意見をいただき、適宜修正を行っている。特にコロナ禍においては、実習への取り組み等、受け入れ側としての立場からご意見を頂戴し、実習先にも安心して受け入れてもらえるような条件整備を行うことができた。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

職業実践専門課程3学科の就職希望者の2021年度就職内定率(2021年度最終時点)は医療事務科100%、ホスピタリティ科95%、社会体育科100%であった。また、専門士の資格が活きる関連分野への就職内定率は、医療事務科92%、ホスピタリティ科71%、社会体育科83%であった。2020年度は、ホスピタリティ科では関連分野の内定者が大幅に減少したが、2021年度は回復傾向であった。医療事務科に関しては、例年より早期から就職内定者が出て就職活動自体は順調であったものの、業界内定率という点では減少に転じた。今後も一定数は他業種への就職があるものと思われる。

② 今後の改善方策

入学時の学科選択が出口の就職先と接続するよう、修得した専門知識・スキルと関係のない安易な就職先に決して終わらぬよう在学中に適切な進路指導を重ねる必要があるが、他業種への就職も視野に入れなければならない。進路変更が退学につながることはないよう、個々人への対応を担当、キャリアセンター等連携を密にして実施する。

③ 特記事項

卒業生において、就職後1, 2年間で早期離職した事例が見受けられる。ただし、離職した本人からではなく、同級生等からの報告によって学校側が把握することがほとんどである。離職した後ろめたさからか本人が報告したり、再就職のため学校を訪れたりすることに抵抗を感じているのではないだろうか。在学中から良好な関係をつくりつつ、併せて卒業後の支援の実施についても伝えておく必要がある。また、ICTを活用した相互の連絡手段の確立にも努めたいところである。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
進路就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1

保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校,高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

卒業生への支援については、(4)で記載のとおりである。また、社会人の受け入れに関する環境整備と高校等との連携によるキャリア教育職業教育の取り組みについては十分に行えていないのが現状である。

② 今後の改善方策

全日制の専門学校であるため、在籍期間と費用面が社会人にとって最も大きなハードルである。必要資格のみを短期間で取得できるようにすることは検討可能かもしれない。また、教育訓練給付金制度は一部の学科コースで適用となっているが、医療事務科は募集条件(女性のみ)で2022年度から不認定となった。条件変更が適切かどうか判断は必要ではあるが、検討の余地はあると思われる。

③ 特記事項

コロナ禍において、生徒の支援を継続的に実施してきた。特に留学生に関しては、入国できない場合でもオンラインでの授業を実施し、入国や学習へのモチベーションの低下しないように努めた。

(6)教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

コロナウイルス感染症対応のため、時期によってはオンライン授業を実施した。教職員も2年目で授業の配信にも慣れ、滞りなく実施できた。今後は、オンライン授業だけでなく、より効果的な学びをするために普段の授業から生徒自身の機器をWi-Fi接続させることを引き続き検討し、ICT機器の文房具的利用を促進する必要がある。

また、インターンシップに関しては、2021年度もコロナの影響を受け、夏期の実習が中止された。

② 今後の改善方策

施設老朽化に伴う、不備が散見されるため、適宜対応をしていくことになる。パソコンについては今後、生徒に一人一台所有させることも検討し、場合によってはコンピュータールームを縮小することも視野に入れる。その場合は普通教室に電源設備等を充実させることも必須のため、精査が必要である。

インターンシップについては、生徒の体調管理の徹底等、本校としてできることを引き続き実施し、実習先に受け入れてもらえるよう準備をしておかなければならない。

③ 特記事項

設置基準で「なるべく備えるものとする」とされている図書室は存在するが面積・蔵書数等不十分、ベッドは設置されているが保健室とは言えない等改善が必要である。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

高等学校等に最新かつ適正な学校情報を各種媒体、会場説明会、学校説明会、学校訪問等によって伝えることに努めている。募集専従者人数も広報経費を限られているため、綿密な戦略・戦術・兵站を考える必要がある。2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスをはじめ、各種説明会、学校訪問等が実施できない時期があり、募集に影響を受けた。言語コミュニケーション科も入国ができない状態となり、こちらも大打撃を受けた。

② 今後の改善方策

広島YMCAの専門学校3校の担当者と協力をしつつ、募集戦略を検討する必要がある。特に SNS 等を利用した対象者への直接的接触と学校訪問による間接的接触の両側面からの方策を強化したい。言語コミュニケーション科への留学生募集に関しては、国際情勢の影響を少なくするため、中国のみならず、複数の国からの募集を強化しなければならない。

③ 特記事項

学納金に関しては学校法人広島YMCA学園が利潤追求を目的としない学校法人であることから可能な限り低廉に抑えるべく努力をしている。同時に学校独自の各種奨学金や授業料減免制度を体力の限界まで設定し生徒・保護者の便宜を図っている。また学費の特別希望回数分納制度については多くの生徒が利用している。

(8) 財務

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

専門学校における経営的安定には、生徒の確保が重要なのは言うまでもない。本校においてはコロナウイルスの影響、大学等との競争の激化、そして営業力の低下により、生徒の確保が十分でない状態となっている。

医療事務科は就職先での感染の不安、ホスピタリティ科は観光客減少に伴う求人の減少、そして言語コミュニケーション科においては、留学生の入国不可というそれぞれがコロナウイルスに関連した影響をもろに受けている。社会体育科に関しては、大学等の学部新設等にもなう生徒の奪い合いが激化し、入学者を十分確保できていない。また、2020年度の募集担当者の他校との兼務、2021年度は事務長が募集業務を兼務する等、マンパワーの不足も否めない。併せて直接的広報手段であるSNSへの対応も追いついていない。このような複合的要因で生徒確保が進んでおらず、財政基盤が安定しない一因となっている。

② 今後の改善方策

まずは専従の募集担当者の確保が何より必要である。そして、職業実践専門課程の3つの学科(医療事務科、ホスピタリティ科、社会体育科)については、学校法人広島YMCA学園の3校で協力しながら、高校訪問による教員への理解の促進とSNSによる高校生への直接的広報の実施等に取り組む必要がある。言語コミュニケーション科に関しては、これまでと同様、海外エージェントへの働きかけによる募集活動と国内での他ビザで日本語を学びたいという人材の確保を継続して行うが、(7)②にも記載したとおり、募集対象国の分散化も今後を見越して実施する。

③ 特記事項

コロナ禍において家庭の経済状況がさらに厳しさを増しているが、AO奨学制度、特待生学費減免制度は財務状況を鑑みて運用することになる。

(9) 法令遵守

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
法令,専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し,その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

法令等については遵守し、運営されているが、個人情報の取り扱いに関しては、今後の社会情勢の変化も見極めながら、対応していくことが寛容である。特にジェンダーやLGBTQ、障がい等の個人情報については、慎重に取り扱わなければならない。

② 今後の改善方策

①の課題については、これまでの常識的対応では、通用しない場合が発生と考えられる。情報の収集、管理、取り扱い等ガイドラインを設けたうえで、個人への尊厳を重視しつつ対応する必要がある。

③ 特記事項

個人への尊厳は教育における基本とも言える。教育機関としてふさわしい対応を求めたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか	4	③	2	1
生徒のボランティア活動を奨励,支援しているか	4	③	2	1
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

例年は公益財団法人広島YMCA GCC(global community center)の企画する数多くの社会貢献・地域貢献活動に本校の生徒、職員が積極的に参加している。言語コミュニケーション科の留学生も多数参加する等意欲は高い。しかしながら、2020年度に引き続き2021年度もそれらの活動が中止され、ボランティア活動等の機会はほとんどなかったのが実情である。

② 今後の改善方策

社会貢献活動は本校の教育の一つの柱としている。生徒の人間力の形成に効果が大であるので、すべての学科のできるだけ多くの生徒に参加可能な活動に機会を提供したいが、現状としては難しい。

③ 特記事項

困難な中にある人たちの状況に共感し、少しでもその方たちの助けになりたいという気持ちを持ち、実際に行動することは共助そのものである。災害支援だけでなく、さまざま活動をとおして、そのような学びの場に多くの教職員、生徒が参加できるようになることを切に願う。

(11) 国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
留学生の受入れ派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2	1
受入れ派遣,在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	③	2	1

① 課題

英国に2つの姉妹提携校、Warwickshire College とPembrokeshire College がある。両校は Further Education を行う学校であり、専門学校である本校と似通った学科・コース編成を実施している。2013年度、2014年度、2015年度、2016年度、2017年度、2018年度、2019年度と主に本校のホスピタリティ科生徒を中心とする現地研修が行われ成果が現れている。2018年度からは新たに提携した英国 Birmingham 市

の South &City College を研修先に加えた。中国にも提携校の北京科技大学、姉妹提携校の蒙古族学校（モンゴル自治区フフホト市）がある。他にも米国ハワイ州に UH-Kapiolani Community College、オーストラリアタスマニア州に Tasmanian Polytechnic という提携協力校がある。2020 年度以降については海外研修を実施できていない。

② 今後の改善方策

本校のホスピタリティ科のみ海外姉妹校研修を実施しており、経費の面から希望者のみの研修となっていたが、2019 年度からは医療事務科、社会体育科に関しても参加希望者を募り、海外研修の機会を設定した。広島YMCAの3つの専門学校（岩国、米子）にも呼びかけ、関心ある生徒の参加が可能となるようにと模索してきたが実現の運びに至っていない。

③ 特記事項

2019年度に本校生徒が参加した国際交流プログラムは、フィリピンワークキャンプ、Let's Get Together プログラムである。11月には従来の Warwickshire College から Birmingham 市の South &City College に研修先を変更して15泊（機内泊 1 泊）16 日（11 月 22 日～12 月 7 日）の海外実務研修（期間の半分は語学研修）を参加生徒 11 名引率教員 1 名で実施した。今回は現地の名門ホテルでの実地体験研修はなかったものの伝統となっている生徒自身が物騒なロンドン、パリでツアーコンダクター・プランナーを実行しサバイバルツアーを体験する良い機会となった。